

児童・生徒の現状・課題

- ・明るく素直で前向きに学習に取り組むことができる。
- ・苦手なことに挑戦したり粘り強く取り組んだりすることに課題が見られる。
- ・自分で決めたり課題を見つけて設定したりする経験が少ない。

**学び続ける力を育むための重点目標**

○個別最適な学びと協働的な学びを意識した授業づくりを通して、児童が自分で考え、主体的に学び続けることができるようにする。

**児童生徒調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	84.4	90.0	81.5
②取り組む課題や調べ方、話し合う相手や発表方法など、学び方を自分で選び、学習をすすめることができる。	88.6	90.0	88.5

**教員調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	84.2	90.0	100
②授業では、他の人と考えを交流したり、協力して活動に取り組んだりする場面を設定し、児童生徒の思考を深めたり、広げたりできるようにする。	89.5	90.0	100

具体的な手だて①

単元や授業の導入を工夫することで、児童が興味や関心をもち、見通しをもって学ぶことができるようにする。

具体的な手だて②

ICT 機器を活用して、個に応じた学習活動や学習課題を提供することで、児童が自己の力に応じて課題を見つけたり決めたりすることができるようにする。

具体的な手だて③

単元全体を通して、ペアやグループでの話し合いなど、協働的な学びの場を設定することで、児童が他者との関わりを楽しみながら多様な考えに気付く、学びを深めたり広げたりできるようにする。

**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

- ・校内研究のスプレッドシートを作成し、全員で実践や協議内容等を共有できるようにする。
- ・授業づくりの際に、児童が「選ぶ」場面を意識的に授業の中に取り入れる。

総括(7月) 校内の学習に関するアンケート(5月)の結果から、本校の児童は、自己肯定感が高いが、自分の力を適切に理解し自己調整しながら学ぶことに課題が見られた。要因としては、自分で課題を見つけたり選択したりする経験が少ないことが考えられる。そこで、まずは、教員が児童に「選択」させる場面を意識的に授業の中に取り入れることから取り組んでいく。また、それに適した単元や題材等を確認し、次年度に向けて計画を立てていく。

総括(1月) 児童に「選択」させる場面を意識的に授業の中に取り入れることを大切に、授業づくりに取り組んできた。また、各教員が取り組んできた実践を共有する取組も行い、教員同士も互いのよさを取り入れられるようにしてきた。調査結果をみると、数値は昨年度とほぼ変わっていないが、教員の意識は高まっていると感じている。今後は、児童が進んで学習計画を立てることができるよう、見通しをもたせる工夫や目的やゴールの明確化を意識して授業づくりを行っていきたい。